
[成果情報名] トマトの長期どり促成栽培におけるハモグリバエ類に対するバンカープラントを併用した天敵利用法

[要約] 長期どり促成栽培トマト（8月中下旬定植）において、9月上旬に天敵ハモグリミドリヒメコバチ100頭/10aの2週連続と、バンカープラント1個/10aの4週連続を併用することにより、翌年の春先までハモグリバエ類を低密度に抑制する。

[キーワード] トマト、ハモグリバエ類、天敵、バンカープラント

[担当部署] 病害虫部・虫害チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 野菜

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

施設トマト栽培において、ハモグリバエ類に対する生物的防除法として、寄生性天敵の利用があげられる。一般的な天敵利用の場合は、対象害虫の密度や生育ステージにタイミングを合わせるために3～4週連続放飼が行われており、コストの低減が求められている。このため、放飼した天敵の圃場での密度維持を安定させるため、天敵の代替寄主とその餌植物を組み合わせたバンカープラントの作製方法および圃場への導入適期を明らかにした。

そこで、圃場における天敵とバンカープラントの併用効果を明らかにし、その利用法を確立する。

（要望機関名：生産流通課、八女普（H6））

[成果の内容・特徴]

- 1．長期どり促成栽培トマトにおいて、定植後の9月上旬からの10a当たりハモグリミドリヒメコバチ100頭の2週連続放飼とバンカープラント1個の併用は、翌年の春先までハモグリバエ類を低密度に抑制し、10a当たりハモグリミドリヒメコバチ100頭の3週連続放飼のみの場合と比較して効果は同等であり、天敵の放飼回数を1回削減できる（図1）。
- 2．バンカープラントの導入回数は、2回では効果がやや不安定であるが、4、8、10回では同様の高い密度抑制効果が見られるため、効果と労力の面から4回導入が適当である（図1、一部データ略）。
- 3．2002年度に導入したバンカープラントからは、10a当たりに換算して41～119頭のハモグリミドリヒメコバチが再生産されたことが確認された（データ略）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．ハモグリミドリヒメコバチは現在農薬登録申請中である。
- 2．ハモグリバエ類の寄生蜂は寄主探索を行う範囲が広いいため、天敵放飼およびバンカープラント設置場所は、圃場内の1カ所で十分である。
- 3．今回使用した代替寄主に対してイサエアヒメコバチは寄生可能であるが、バンカープラントとの併用の効果については不明である。

[具体的データ]

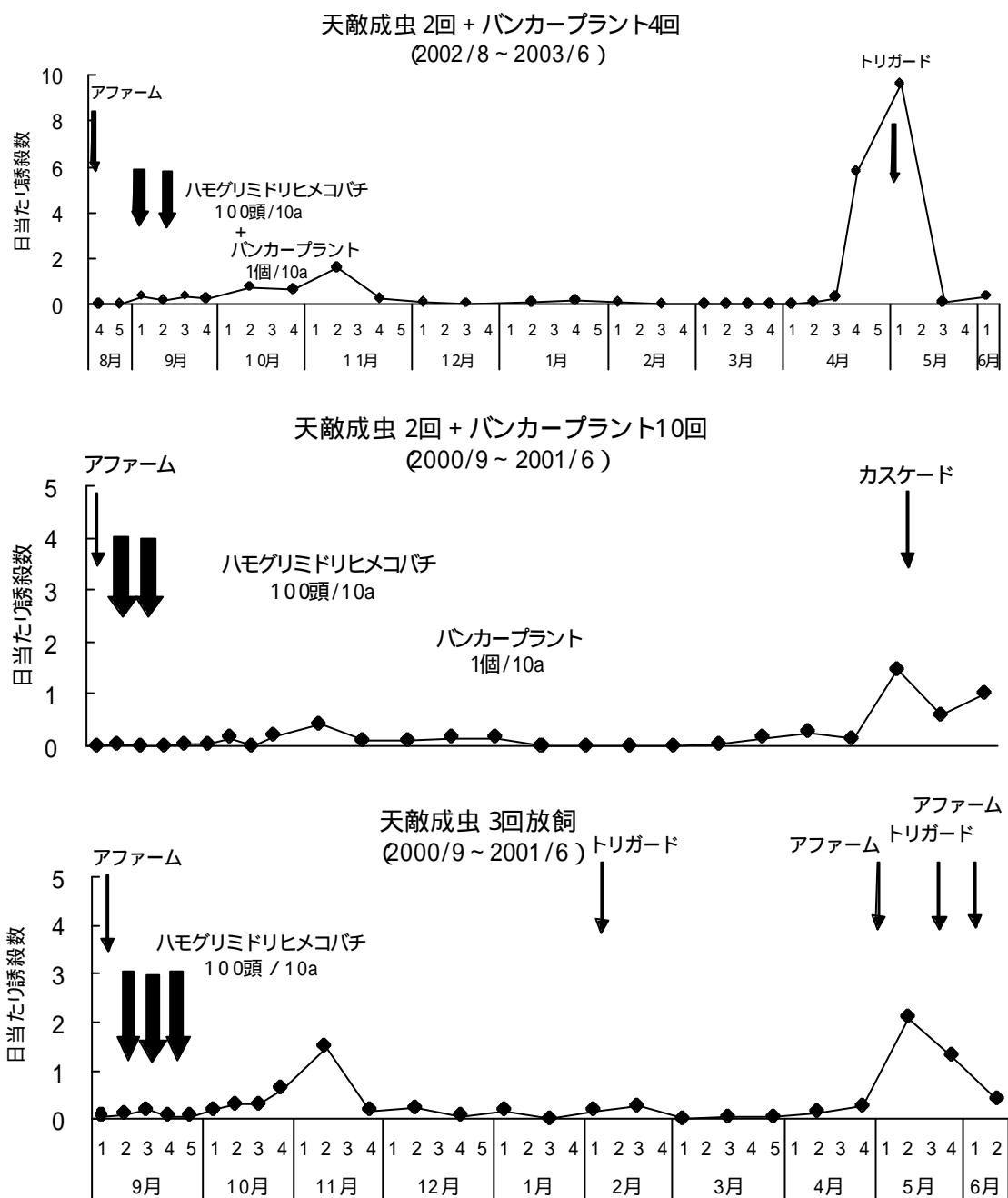


図1 黄色粘着トラップによるハモグリバエ類誘殺消長
 注) 上段: 2002年度、中下段: 2000年度

[その他]

研究課題名: トマトにおける総合害虫管理技術の確立

施設果菜類における50%減農薬防除体系の確立

予算区分: 県特(環境にやさしい農業新技術)

経常

研究期間: 平成15年度(平成12~17年度)

研究担当者: 山村裕一郎、嶽本弘之